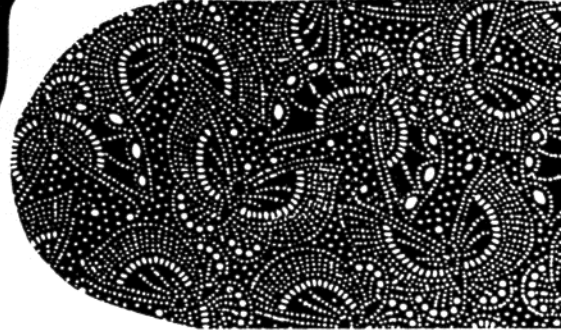
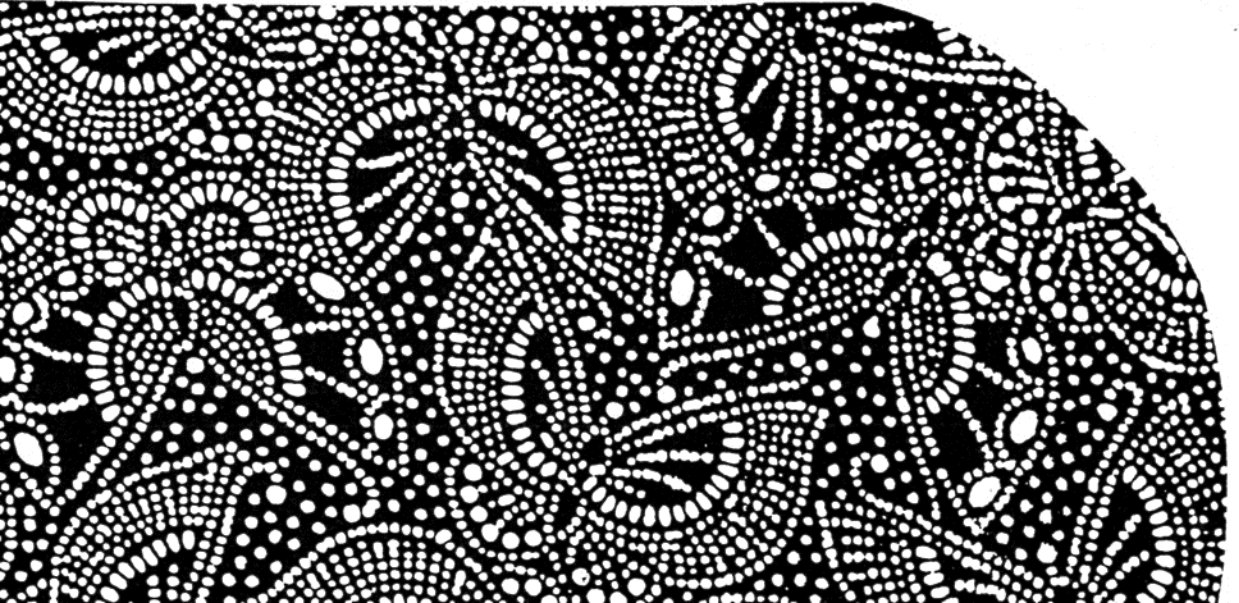
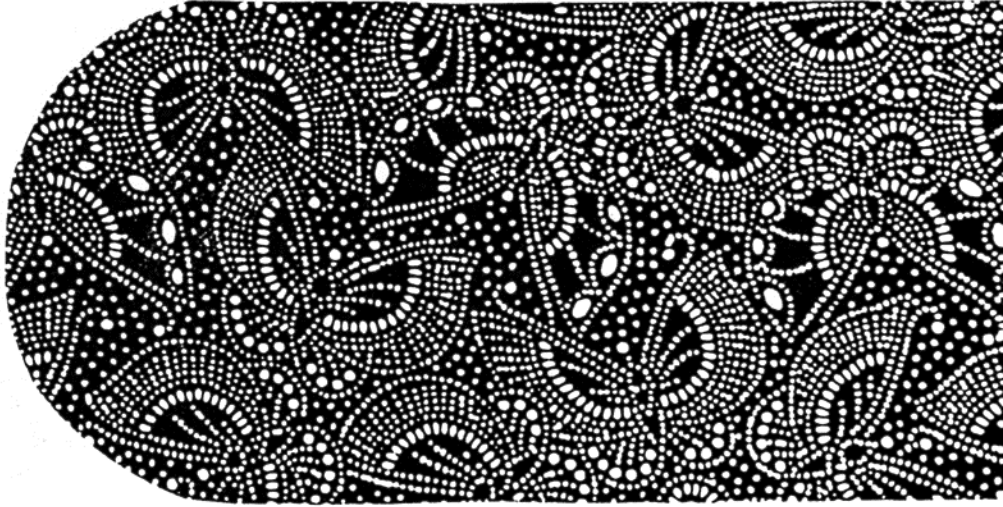


NO. 92 OCTOBER 1991

初



百万石蝶談会



白山釈迦林道でクジャクチョウを採集

澤田 博

石川県ではクジャクチョウの記録は少ないが、白山釈迦林道（標高1,100m）で、道路上を往復しているクジャクチョウを採集したので報告する。個体は新鮮な雄であり、発生初期の記録として興味ぶかい。

1991年7月7日 石川郡白峰村白山釈迦林道 1♂ 澤田 博

県内の7月中の採集記録は、嵯峨井淳郎氏が1971年7月13日に金沢市医王山で採集されたもの¹が最も早いと思われるが、氏に標本を確認していただいたところ、「破損しており越冬個体と思われる」ということで、新成虫の記録は1983年7月29日に白山南竜馬場で目撃されているもの²がこれまでの最も早い記録であると思われる。

いろいろ御教示いただいた、嵯峨井淳郎氏と松井正人氏に感謝する。

1) 嵯峨井淳郎(1973)とつくりばち(24・25):3-4

2) 吉村久貴(1987)翔(66):5-6

《さわだ ひろし 〒920 金沢市石引1-16-11》

クジャクチョウの目撃記録

竹谷 宏二

石川県におけるクジャクチョウは、筆者の経験ではそのほとんどが白山の頂上部あるいはそれに続く尾根筋で目撃しており、高山の蝶という印象であった。しかしながら今度、標高約750m地点で確認したので報告する。

1991年7月14日 白峰村百合谷林道(標高約750m) 1頭確認 竹谷宏二

当日の天候は晴、時刻は15:30頃、路上で盛んに吸水しながら、ときおり付近のヒヨドリバナ、ヒメジョオンで吸蜜していた。

なお、参考として、過去の目撃記録とその時の吸蜜植物を併せて紹介する。

1981年8月15日 白峰村白山別山道 1頭 コバイケイソウ

1983年8月14日 " 1頭 コバイケイソウ、イワガミ、イワメ、ミヤマキノキリンソウ

1984年7月30日 " 1頭 コバイケイソウ

1985年7月27日 白峰村白山観光新道(殿ヶ池) 1頭 ヒヨドリバナ

1985年7月28日 尾口村白山中宮道(お花松原) 1頭 コバイケイソウ

1985年7月29日 白峰村白山室堂平 3頭 コバイケイソウ、イワガミ、チンゲルマ

1990年8月25日 尾口村白山丸石谷林道(標高1200m) 1頭 吸水

アミカケは、原色日本蝶類生態図鑑Ⅱ(保育社)において、本種の吸蜜植物として記載のないものである。

《たけたに こうじ 〒924 松任市三浦町44-2》

辰口町鍋谷にてクジャクチョウを目撃

松田俊郎

「あっ！」と思った瞬間、蝶は後方に流れていった。黒に赤の残像は、アカタテハかヒメアカタテハという感じがしたが、何か違うような気もしたので、車を止めて今見た蝶を捜してみた。

幸い、この蝶は道端の葉上に止まっていた。羽はかなり破損していたが、良く見るとクジャクチョウではないか。ここ鍋谷は、まわりは山に囲まれているが、標高は100mにも満たない水田地帯である。こんな所で、クジャクチョウに会えるとは思ってもみなかった。

クジャクチョウは県内においては白山とその周辺で見られるが、稀な蝶であり、私の知る限りこんな低地で見られた事はない。採集していないので、雄か雌か明らかにできなかったのは少し残念だが、写真を添えて報告する。

クジャクチョウ 1991年5月19日 能美郡辰口町鍋谷 1頭目撃 松田俊郎



《まつだ としろう 〒920-21 鶴来町大国町ホ94-5》

0	クジャクチョウ	短 報	24	0
	1991年5月25日	吉野谷村中宮温泉	1♂採集	松井正人
	1991年8月13日	尾口村白山見返坂～七倉山	5頭目撃	野中 勝
	1991年8月14日	白峰村白山黒ボコ岩	1頭目撃	田辺幸雄
0				0

8月の白山七倉山で見かけた蝶

松井 正 人

白山小桜平の小屋をベースに、3日程高原の夏を楽しんだ。この時期登山者でごったがえす南竜ヶ馬場や室堂付近とは同じ山かと思える程、ここ小桜平は静寂で丸1日誰とも合わない事だっている。ただ無人小屋ということで、ザックがグッと重くなるのが難点と言えば難点かも知れない。白山にはこのような無人小屋がいくつも整備され、きれいに維持されている。こんな山小屋で一人のんびり過ごすのも、なかなかいいものである。

ここをベースに16日は清浄ヶ原、17日と18日は七倉山付近を散策した。16日と18日は曇っていたが、17日は大快晴で朝の冷え込みは大変なものだった。

今年に入って石川県では珍しい部類のクジャクチョウが、各地で目撃されていることから、今回はクジャクチョウに注意し、16日に見返坂で1頭、17日に七倉山で10頭、18日も七倉山で3頭を観察した。16日と18日は曇天で17日より気温が低かったためか、蝶は全般的に少なかった。

17日は大快晴で日当たりにいると頭がクラクラするほど暑く、日傘代わりに雨傘をさしながらお花畑を眺めていると、各種タテハが飛び交い、ときおりアサギマダラが青空をバックにゆったりと飛び過ぎ、ベニヒカゲやクモマベニヒカゲはさまようように飛んでいた。そんな中でクジャクチョウはアザミの花に訪れていた。

1991年8月17日	尾口村白山七倉山	松井正人観察	
クジャクチョウ	10頭	テングチョウ	1頭
ヒオドシチョウ	3頭	アサギマダラ	16頭
アカタテハ	4頭	ベニヒカゲ	多数
ミドリヒョウモン	1♂1♀	クモマベニヒカゲ	4頭
ウラギンヒョウモン	2♂	イチモンジセセリ	1頭

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

石川県でメスアカムラサキを採集

井村 正 行

1991年8月15日 河北郡内灘町内灘霊園 1♂採集 井村 光

墓参の帰り際、松の枝に止まっていたものを筆者の息子が手づかみしたもので、ほぼ新鮮に近いものであった。採集した午後0時半頃は、晴で暑かった。

内灘町は日本海と河北潟に挟まれた幅約1.5kmの砂丘地に発達した町で、霊園は砂丘の頂上部、日本海側に面した防風林帯にある。

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

立山・弥陀ヶ原にて

勝海雅夫

今年の梅雨は北陸地方に大雨をもたらし、特に7月12日は北陸自動車道が一部閉鎖といった集中豪雨に見舞われた。晴れ間といえ、7月5日・6日位で、その他は晴れ間らしい晴れ間が見られずじまいでここまで来ている。

7月13・14日が2日間とも晴れていれば、間違いなく乗鞍方面へ車を走らせていたと思う。残念ながら天気予報は14日のみ曇り時々晴れの予報。しかし立山・白山は、霧のため視界が悪いとの情報。「あァ～もう行くのやめようかな～いや、でも行ってみよう。」こんなためらいの中で、14日北陸自動車道を立山I・Cに向けて出発した。午前7時半のことである。

立山山岳登山の起点である千寿ヶ原は、日曜日とも重なり団体バスでゴったがえしており、美女平までの7分程を20分も費やしてしまった。美女平は視界10mのガスの為、一面乳白色の世界が広がっていた。改札口の係員に室堂・弥陀ヶ原の天候を聞いたところ、「上はガスが晴れて。陽が照ってますよ。」との情報。日頃の行いが功をそうしたのだろうと、内心ほくそえむ。

美女平から弥陀ヶ原までの行程は、高原バスで約30分。途中ブナ平付近から、ガスが徐々に晴れて、弘坊を過ぎた辺りから陽が射す様になった。バス停「弥陀ヶ原」から追分料金所を過ぎて50m下った辺りより、左へ折れて登山道がついている。登山道脇には高層湿原が眺望でき、有名な「ガキの田」も見られ、ワタスゲ、ニッコウキスゲ、チングルマ、イワイチョウ、コイワカガミ等が今は盛りと咲いている。中でもミヤマモンキチョウが好んで吸蜜するのはイワイチョウの白い可憐な花。ミヤマモンキチョウの棲息が最も多いのは、弥陀ヶ原の森林限界近辺のようである。この日は、ほとんど曇りで時々陽が射すといった天候であったが、晴れ間には羽化したてのミヤマモンキチョウを確認することができた。

帰りの高原バスを弥陀ヶ原バス停にて予約していたので、午後2時半にバス停に着くようにもと来た道を急いだ。舗装道路脇にイワオウギを確認しだしてから数分、ふとアリが群がっている株をいくつか見つけた。「これは、・・・間違い無くアサマジミの幼虫だ。」弥陀ヶ原バス停から下ること200mの道路脇だった。1982年立山称名滝にて会員の中西重雄氏がアサマジミ1♂を採集された時に、「弥陀ヶ原にも棲息している可能性が高い。」と会員各氏からの意見を耳にしていたが、まさか偶然とはいえ確認することができたのは、幸運だった。

1991年7月14日 富山県立山弥陀ヶ原 勝海雅夫 観察

ミヤマモンキチョウ 多数

アサマジミ 幼虫多数 (イワオウギ)

《かつみ まさお 〒921 金沢市西金沢新町6番》

石川県に於けるゼフィルスの分布5

松井正人

本紙88号(1991年2月)から始まったゼフィルスの紹介も、今回で終了する。石川県で確認されているゼフィルスは現在も17種で、18種目は鋭意調査されているものの、この数はここ30年程変化していない。なお、同産地のデータは最も新しいものを採用し、メッシュ分布図は国土地理院発行の5万分の1の地形図を16等分して利用したのは、これまでと同様である。

15 エゾミドリシジミ

県内山地に広く分布すると思われる。本種は採卵調査が難しいとされていたが、勝海雅夫氏による新採卵技術の導入によって採卵調査も進み、奥能登に於ける本種の発見もこの賜物である。

文献

1984年12月16日	輪島市宝立山	64卵	野中 勝・他	
1984年11月25日	押水町宝達山	13卵	野中 勝・他	
1990年 8月25日	押水町宝達山ピーク	1♀	松井正人	
1978年 6月30日	金沢市医王の里	1♂	吉村久貴	2001
1990年 2月 4日	金沢市医王山	5卵	松井正人	
1978年 7月 9日	金沢市医王山重山道路	1♀	吉村久貴	2001
1978年 7月 1日	金沢市医王山重山分岐	2♂2♀	吉村久貴	2001
1986年 6月28日	金沢市医王山菱広峠	1♂目撃	松井正人	
1978年 5月 5日	金沢市熊走	2幼	野中 勝	2005
1958年 7月21日	金沢市見定	5♂	手塚正一	9005
1982年11月28日	金沢市順尾山	1卵	岩下泰子・他	2035
1970年 7月 5日	金沢市倉ヶ岳	数頭	三陰外茂治	9019
1978年12月31日	金沢市大平沢	4卵	松井正人	
1958年 6月30日	金沢市日尾	1♂	手塚正一	9005
1980年 7月 1日	鶴来町獅子吼高原	数頭目撃	嵯峨井淳郎	
1980年11月 9日	鳥越村杖川	1卵	松井正人	
1980年 6月29日	吉野谷村蛇谷	1♂	吉村久貴	
1983年12月 4日	吉野谷村瀬波谷	1卵	松井正人	
1980年 9月23日	吉野谷村中宮	1卵	松井正人	
1984年12月31日	吉野谷村中宮スキー場	3卵	山岸善也・他	2050
1977年 6月28日	吉野谷村中宮温泉	2♂	松井正人	
1984年10月20日	尾口村一里野	多数卵	松井正人	
1986年 8月10日	尾口村丸石谷	1♂1♀	松井正人・他	
1978年 8月15日	尾口村岩間温泉	2♀	松井正人	
1978年 7月 2日	尾口村新岩間温泉	1頭目撃	松井正人	
1985年 1月15日	白峰村小豆峠	1卵	中西重雄・他	
1990年 7月 8日	白峰村大杉谷	1♂1♀目撃	松井正人	
1970年 8月12日	白峰村白山砂防新道	1頭目撃	松井正人	
1980年 7月13日	白峰村白山釈迦林道	1♂	吉村久貴	
1956年 8月16日	白峰村白山柳谷	1♀	手塚正一	1006
1984年11月18日	小松市大山	5卵	中西重雄	2048

16 オオミドリシジミ

県内全域に広く分布すると思われるが、普通種の為か記録は少ない。標高10m程度から2000mを越える高地に至る広い範囲に見られる。

			文 献
1954年 6月27日	輪島市一本松公園	1♂1♀	日吉芳朗 9054
1951年 7月18日	輪島市高洲山	1♂	1019
1954年 6月26日	輪島市松陵中学校	1♀	日吉芳朗 1019
1983年 3月22日	津幡町瓜生	7卵	吉岡 泉・他 2041
1982年 5月 3日	金沢市キゴ山	1幼	松井正人
1978年 6月30日	金沢市医王の里	2♂	吉村久貴 2001
1982年 6月19日	金沢市医王山	1♂	岩下泰子
1980年11月 6日	金沢市卯辰山	1卵	松井正人
1984年12月 2日	金沢市角間	8卵	野中 勝 2051
1982年10月12日	金沢市車	1卵	松井正人
1982年 5月 2日	金沢市小平沢	5幼	松井正人
1976年 6月27日	金沢市倉ヶ岳	1♂	橋場 清 2005
1970年 6月21日	金沢市大桑	1♀	松井正人
1982年 5月 9日	金沢市湯涌	2♀羽化	野中 勝 2043
1984年11月23日	金沢市湯涌温泉	1卵	野中 勝 2051
1981年12月 5日	金沢市二俣	卵	野中 勝 2026
1983年 5月16日	金沢市菱池	1♀羽化	野中 勝 2043
1983年10月25日	金沢市俵	3卵	松井正人
1981年11月29日	金沢市野田山～平栗	2 4卵	野中 勝 2031
1983年11月14日	金沢市柚木	1 4卵	松井正人
1982年 1月24日	金沢市夕日寺	1 2卵	野中 勝 2031
1974年 6月 日	金沢市鈴見山	1♀目撃	井村正行 2005
1984年11月17日	鶴来町坂尻	1 1卵	松田俊郎 2051
1983年 3月27日	鶴来町坂尻～小柳	1 8卵	吉村久貴・他 2040
1988年10月23日	河内村内尾	3卵	野中 勝
1983年 3月27日	河内村板尾	1卵	吉村久貴・他 2040
1981年12月 6日	鳥越村左礫	1卵	野中 勝・他 2027
1978年 5月27日	吉野谷村中宮温泉	1幼	野中 勝 2005
1977年 8月 7日	尾口村岩間温泉	1♀	古家 徹 2007
1988年 8月 6日	白峰村赤兎山山頂	1♂	松井正人
1975年 8月 4日	白峰村白山室堂	1♂	2004
1956年 8月 7日	白峰村白山六万山	1♀	山田二三男 9017
1983年 3月27日	辰口町鍋谷～仏大寺	7卵	吉村久貴・他 2040
1980年 6月24日	小松市鞍掛山	1♂1♀	中山佐一郎 9024
1984年 5月20日	小松市鶴川	7幼	松井正人・他
1982年 6月26日	小松市岩淵	1♀	中山佐一郎 9104
1983年 6月28日	小松市西俣	1♀	中山佐一郎 9104
1982年 7月 1日	小松市赤瀬	1♀	中山佐一郎 9104
1981年12月 6日	小松市大日川ダム	1卵	野中 勝・他 2027
1985年 7月23日	小松市動山	1♀	中山佐一郎 9104
1983年 7月 1日	小松市馬場	1♀	中山佐一郎 9104
1983年 6月10日	小松市木場	1頭	辻 栄治 9104
1983年 4月 8日	加賀市曾宇寺尾観音	4卵	吉村久貴 2041
1983年 4月 8日	山中町我谷	5卵	吉村久貴 2041

17 ジョウザンミドリシジミ

金沢市以南山地に広く分布すると思われる。採卵調査が容易なことと分布の濃さから、調査はかなり進んでいる。能登地方では、宝達山、高洲山、宝立山と調査されているが、発見されていない。

文 献

1972年 6月25日	金沢市キゴ山	1♂	松井正人	
1990年 2月 4日	金沢市医王山	10卵	松井正人	
1990年11月18日	金沢市医王山夕霧峠	数卵	野中 勝・他	
1981年12月27日	金沢市横谷	1卵	松井正人	
1989年 2月12日	金沢市駒場	1卵	松井正人	
1990年 8月 1日	金沢市見越山	2♂目撃	松井正人	
1978年11月11日	金沢市高尾山	数卵	松井正人	
1989年11月16日	金沢市国見	1卵	松井正人	
1982年11月14日	金沢市犀川ダム	6卵	野中 勝	2036
1978年 6月24日	金沢市住吉	3♂1♀	野中 勝	2005
1990年10月28日	金沢市順尾山	卵	野中 勝	
1980年10月16日	金沢市倉ヶ岳	1卵	諸道秀人	2020
1980年11月30日	金沢市大平沢そら山	16卵	松井正人	
1980年10月18日	金沢市坪野	1卵	諸道秀人	2020
1977年 8月14日	金沢市尾の谷峰	2♀	松井正人	
1979年 2月 4日	鶴来町獅子吼スキー場	9卵	野中 勝	2006
1985年 1月27日	鶴来町奥獅子吼山	数卵	野中 勝・他	
1987年 1月25日	河内村セイモアスキー場	1卵	松井正人	
1986年 2月10日	河内村烏帽子山	2卵	松井正人	
1990年 7月28日	河内村奥三方山	3♂目撃	松井正人	
1983年11月20日	河内村奥池	9卵	松井正人	
1978年 7月16日	河内村奥池奥三方登山口	7♂2♀	松井正人	2001
1977年10月 2日	河内村直海谷中三方岳	3♀	松本和馬	2005
1979年12月29日	河内村福岡	4卵	松井正人	
1984年12月 9日	鳥越村阿手	2卵	中西重雄	2048
1979年11月25日	鳥越村三ツ屋野	1卵	松井正人	
1980年11月 9日	鳥越村杖川	10卵	松井正人	
1984年12月 1日	鳥越村大日川ダム	11卵	松田俊郎	2051
1988年10月16日	鳥越村鷲走岳	3卵	野中 勝	
1979年11月 4日	吉野谷村雲龍山	1卵	松井正人	
1981年11月29日	吉野谷村高倉山	26卵	松井正人	
1979年11月25日	吉野谷村佐良	1卵	松井正人	
1983年12月 4日	吉野谷村瀬波谷	4卵	松井正人	
1984年12月31日	吉野谷村中宮スキー場	多数卵	山岸善也・他	2050
1985年 2月 8日	尾口村一里野スキー場	15卵	野中 勝	2051
1990年 7月29日	尾口村加賀禅定道	2♂目撃	松井正人	
1984年 7月28日	尾口村丸石谷	3♂目撃	松井正人	
1978年 7月 2日	尾口村新岩間温泉	1♀	松井正人	
1984年11月23日	白峰村護摩堂山	6卵	松井正人	
1985年 1月15日	白峰村小豆峠	6卵	中西重雄・他	
1981年11月24日	白峰村赤谷	卵	野中 勝	2033
1990年11月11日	白峰村大杉谷	数卵	上田 昇	
1958年 7月25日	白峰村白山六万山	1♂	高村紘一	9005
1978年 3月21日	白峰村白峰スキー場	11卵	野中 勝	2006

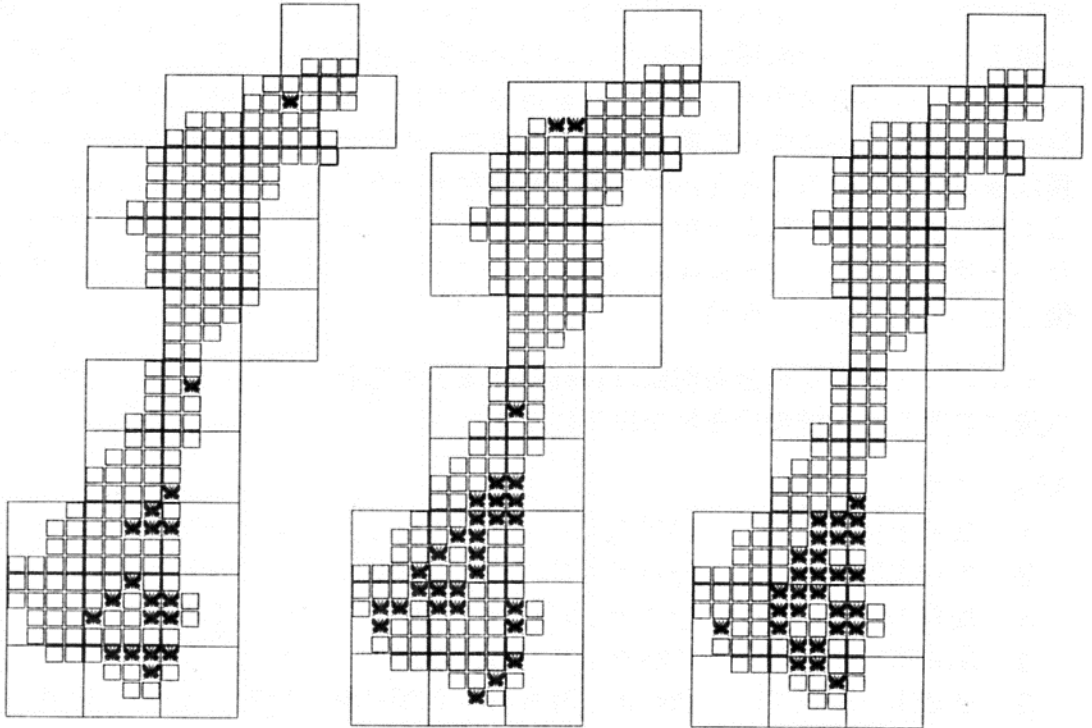
1983年 3月27日	辰口町鍋谷服部鉱山	2卵	吉村久貴・他	2040
1984年11月18日	小松市大山	多数卵	中西重雄	2048
1981年12月 6日	小松市大日川ダム	11卵	野中 勝・他	2027
1982年 6月26日	小松市中峠	1♂	中山佐一郎	9025
1982年 6月26日	小松市動山	1♀	中山佐一郎	9104
1987年 6月24日	小松市蓮如山	1♂	辻 栄治	9105
1983年 4月 8日	山中町刈安山	幼虫	吉村久貴	2041

文 献

エゾミドリシジミ

オオミドリシジミ

ジョウザンミドリシジミ



《 参考文献 》

- 9005) 武藤 明(1959)新昆虫 12(5/6):40-41
 9017) 武藤 明(1959)新昆虫 12(5/6):41-42
 9019) 武藤 明(1971)生物研究 15(1・2):20-21
 9024) 中山佐一郎(1981)小松市立博物館研究紀要(18):1-26
 9025) 中山佐一郎(1984)小松市立博物館研究紀要(21):26-30
 9054) 日吉芳朗(1969)輪島高等学校紀要(3):53-59
 9104) 小松市博物館(1987)小松市博物館所蔵品目録(4):37-57
 9105) 小松市博物館(1988)小松市立博物館研究紀要(25):66-70
 1000~1099) 石川むしの会の「とっくりばち」を示し、下2桁は号数を示す
 2000~2099) 百万石蝶談会の「翔」を示し、下2桁は号数を示す

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

石川県におけるヤコンオサムシ、オオオサムシの分布

野中 勝

ヤコンオサムシ(*Carabus yaconius*)は、近畿、中国、四国の一部などに生息し、日本海沿いに分布を東にのぼして現在のところ富山県西部まで記録されている(1、2)。このうち石川、富山両県産のものは主に雄交尾片の形により亜種*C.y.blairi*として区別されている。一方オオオサムシ(*Carabus dehaanii*)は九州、中国、近畿、中部地方に分布しており、太平洋側では神奈川県が、日本海側では石川、富山県境が東限となっている(1、3、4)。*Ohomopterus* 亜属に属する近縁なこの両種が共にその分布東限を石川県付近に持つことは興味深く、分布の成因を推測する手がかりを得るために、まず石川県における両種の分布状況を明らかにすべく調査を行ってきた。その結果、石川県においては両種は棲み分けていることを示唆する予備的なデータを得たのでここに公表し、広く会員諸氏からこれを支持するデータまたは反証が寄せられることを期待したい。報告に当たり未発表記録の使用を許可された上田 昇、金子二久、坂井俊之助、沢田 博、中西重雄の各氏に感謝したい。

石川県のオサムシの分布記録は1988年にまとめられている(3)が、先ずそれ以後に判明した両種の分布地を以下に示す。

ヤコンオサムシ

1	加賀市橋立	1986年2月23日	1♂2♀	中西重雄・野中 勝
2	加賀市湖上	1989年1月22日	5♂6♀	野中 勝
3	加賀市片野	1989年1月15日	2頭	中西重雄
4	加賀市三木	1989年1月22日	1♂	野中 勝
5	加賀市小塩辻	1991年1月6日	数頭目撃	中西重雄・野中 勝
6	松任市若宮神社	1986年5月24日	1♀	井村正行(5)
7	金沢市錦	1988年10月8日	2♂	金子二久
8	金沢市権殿山	1990年5月16日	2♂1♀	上田 昇
9	金沢市才田	1991年4月29日	4♂4♀	上田 昇
10	輪島市河井	1986年3月9日	3♂	澤田 博、野中 勝

オオオサムシ

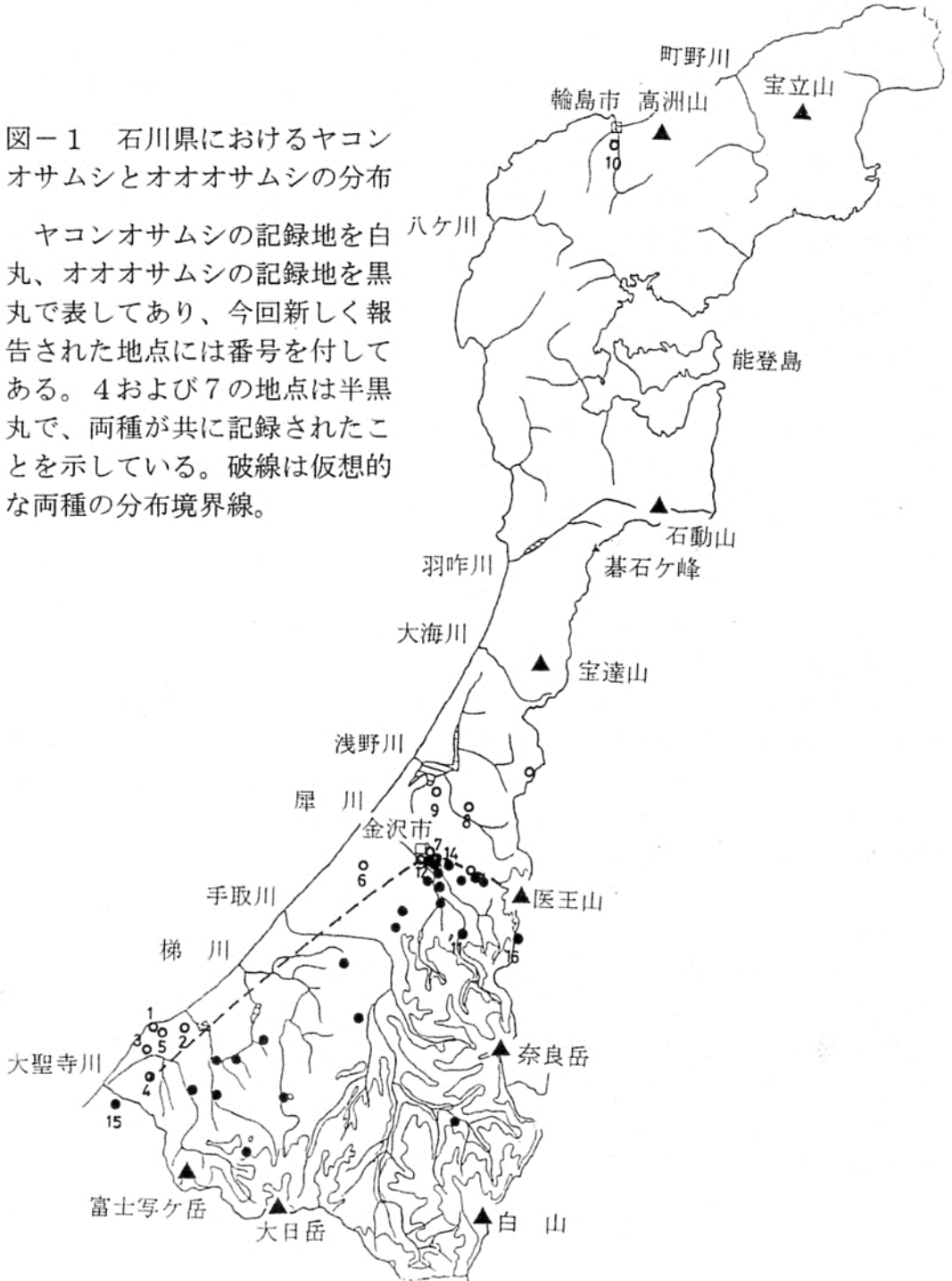
4	加賀市三木	1989年1月22日	1♂	野中 勝
11	金沢市熊走	1989年5月24日	1♀	金子二久
12	金沢市天神	1990年4月22日	1♂	坂井俊之助
13	金沢市錦	1989年4月22日	1♂	金子二久
14	金沢市角間	1990年2月11日	1♂	野中 勝

オオオサムシについては、石川県外ながら県境に近い記録地が二箇所あるのでここに挙げておく。

- | | | | | |
|----|----------|------------|----|----------|
| 15 | 福井県金津町吉崎 | 1989年1月15日 | 2♂ | 野中 勝 |
| 16 | 富山県福光町刀利 | 1991年5月18日 | 1♀ | 野中 勝 (4) |

図-1 石川県におけるヤコンオサムシとオオオサムシの分布

ヤコンオサムシの記録地を白丸、オオオサムシの記録地を黒丸で表してあり、今回新しく報告された地点には番号を付してある。4および7の地点は半黒丸で、両種が共に記録されたことを示している。破線は仮想的な両種の分布境界線。



以上の記録を翔72号のものと合わせて地図上にプロットすると図-1の様に成る。この図から明かなごとく両種の分布地は比較的滑らかな曲線によって分離することが可能で、ヤコンはこの線より北側、海岸寄りに、オオオサはこの線より南側、山寄りに生息している。加賀市三木、金沢市三口新、金沢市錦などでは両種が同一の崖、または同一のトラップから採集されており、これらの地点は両種の分布の接点となっている様である。

石川県西部についてみると、ヤコンの分布地はいずれも標高100m以下の平野部の人為的環境内にあり、このことは冬季オサ掘りによる分布調査を困難にする一因となっている。一方、金沢市以東、以北では金沢市権殿山、津幡町クリカラ峠など標高200m以上の、人為的影響の比較的少ない二次林からも記録されており、県西部とは様相を異にしている。興味深いことに、これらの産地では石川県産第3の *Ohomopterus* であるマヤサンオサムシがヤコンと混生している。以上の結果はヤコンとオオオサは互いに競合する関係にあり、その力関係により現在の分布が形成されたことを示唆している。もしそれが事実なら現在の分布の成立は以下の二つのシナリオのいずれかに従ったものと思われる。一つはヤコンが広く石川県に分布していたところへ南からオオオサが進入し、その結果ヤコンが北へ押しやられたとする考えかたで、もう一つはもともとオオオサが現在の様な分布をしていたところへ間隙を縫う様に西からヤコンが海岸沿いに進入し、県東部ではオオオサの分布が切れる為に低山地にまで進出できたとする考え方である。現在のオオオサの分布が低山地に限られる事実は、オオオサが県南部の山地帯を通過して進入してきた可能性に否定的であるし、日浦による金剛生駒山脈のオオオサムシ属の研究(6)でもヤコンの分布成立が最も新しいと結論しており、石川県においてもヤコンがあとから入ってきたとする説明がよりもっともらしいと思われる。もしそれが事実ならヤコンはオオオサの分布の北の縁に沿って東進しただけとなり、両種の現在の分布を規定しているのは以前からのオオオサの分布ということになる。顕著な地理的障害も見あたらないオオオサの分布東北限がなにによって決定されているのかは興味深い問題であり、説得力のある仮説が提出されることを期待したい。

《 参考文献 》

- 1) 石川良輔(1985)原色日本甲虫図鑑II (保育社) :14-54
- 2) 高野敏明(1990)Kinder Bug(2) :3-18
- 3) 野中 勝・中西重雄・沢田 博(1988)翔(72) :1-27
- 4) 野中 勝(1991)翔(90) :11
- 5) 井村正行(1986)翔(60) :10
- 6) 日浦 勇(1965)大阪市立自然科学博物館報告(18) :49-68

《のなか まさる 〒920 金沢市末町14-70-2》

アサギマダラの吸い寄せ術でマーキングは大快調

松 井 正 人

アサギマダラは白色を好み、黒色を嫌う事はマーキングを始めて3年程で気が付いた。最初はなにげなく黒ネットでマーキング調査をしていたが、なかなか採集できない。アサギマダラは黒ネットを近付けた途端に飛び去ってしまうことが多く、なんて敏感な蝶かと思っていた。ところが友人の話は「敏感どころかむしろ鈍感で採集しやすい」であり、話が合わず、私はイモということになってしまった。ところが3年目のマーキングで白ネットを使うと、アサギマダラは逃げるどころか全くの無頓着で、ネットに止まることだってある。話の違いはこれだったのかと思ったしだいで、それ以来マーキングは白ネットで通している。

さて今年は何度目のマーキングになるだろうか。アサギマダラが群れる薄暗い雑木林は風が通らないので蒸し暑く、ヤブカもけっこう多い。このヤブカ、シャツの上、ズボンの上から下着を通して刺してくるので始末が悪い。長袖、長ズボン、ゴム長と完全武装していても、マーキングの数程(3桁に近い)刺されてしまう。それでもわずかながらにマーキング数が上回っていると、何故か勝ち誇った気分になってかゆみも和らいで来る。こんな恐ろしい雑木林で、なにげなく頭に巻いていたタオルを扇風機のように回したのです。これがけっこう涼しく、風でヤブカもちょっとひるむのです。ところが思いがけなくも、この回したタオルにスーとアサギマダラが寄って来た。タオルは白です。びっくりして止めたタオルを再び回しだすと、来る来る、アサギマダラが面白いほど集まって来る。あるものはトンボの様に、またあるものは翅をV字状にすぼめ、羽ばたかずスーと寄って来る。そしてタオルに近づき過ぎると(10~20cm位)、勘違いに気付くのか(?)急に向きを変えて飛び去る。しかしいくらか離れないうちに再びスーと寄って来る。動かしているタオルを止めたときもおんなじ。最初は雄にだけ効くのかなと思っていたら、雌にも効くことがわかった。今までの試みでは、タオルが見える範囲のアサギマダラには100パーセント有効で、思っても見ない方向から飛んできたり、トンボの様に飛んできたりで面食らう事がある。

この方法の唯一のウイークポイントは、止まっているアサギマダラには効かない事である。何かで飛び立たせると寄って来るが、勘違いに気付いて飛びざると、再びこちらを向く前に止まってしまう。

この吸い寄せ術で今年のマーキングは大快調。遠いところ、高いところ、アミが届かない、振れない所においても、ただ白いタオルをクルクル回せば、アサギマダラの方からスーとアミの前へ飛んで来る。これでは逃し様も無く、体力の消耗も少ない。当たり前の話だが、今年の捕獲率は100パーセント。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

SUN SUN 午後

8月30日午後1時、ただ今「中国・石川の昆虫展」会場です。石川の虫達も中国のに引けをとらずなかなかりっぱ、りっぱ。私が子供の頃採ったミヤマカラスアゲハが一番大きく美しい。子供達が「これ一番きれいやあ」と騒いでいます。う〜ん満足満足。

客相はやはり親子連れが一番多く、続いて正体不明のオジ様方もけっこう多いです。若く美しい女性は全然来ませんわ。次に担当するS様、残念でした。会場での主な声は子供たちの「僕のより大きい！ 小さい！ これ僕んちにおったあ！ 蛾や、きったねえ！ マイマイカブリやあ！ オサムシってなんやあ？」などなど。マイマイカブリは知っていても、オサムシは知らないケースが多いようです。大人達の中には「医王山にこんな虫おったん。知らなかったあ」等、採集地がなじみの場所だけに親しみを感じるのか、一生懸命見てくれる人もいます。でもパネルを読む人は、ほとんどいないんですよ。ピドニアの前では、「ちっちゃい！」と一言。一つ一つ見比べる人など、全然いませんわ。

中国コーナーから出てきて、石川の虫には目もくれずにさっさと帰って行くお母様方、ちょっとちょっとそれはないでしょ。標本の作り方を尋ねに来たおちょこちょいみたいなオバ様、あなたの質問には参りました。「どうやって殺すのですか？」「蝶の場合は胸を押さえて殺すのです」「ああ、わかった、わかった。ブチュッとナカミ(内臓)を出すんですね」・・・(全然わかってないじゃないの)・・・「イ、イエ、内臓は出しません。押さえて殺すだけです」「ああそうですか、後からナカミを出すんですか」「イ、イエ、中身は出しません。そのまま乾燥させるんです」「ナカミは何時出すんですか？」「だから出しません」「ほんとですかあ」・・・(ナカミ、ナカミっていいかげんにしてよ)——「翔」の目次をにがむしを噛み潰した顔でじっと眺め、買ってくれるかと期待してたら、フン！とバカにした顔でそのまま帰って行ったオジさん、ちょっと何が言いたいのよ。文句あるのお。それに比べてやさしい顔でじっと眺め、4冊も買って下さったオジ様、あなたはなんてステキですばらしい。そして更に開いてあった「翔」の写真に誘われたらしく、しぶる母親の手を引いて、「買ってえ、買ってえ」と甘えた声を出し、遂に母親を降参させた1年生位のお嬢様、あなたはエライ！ 将来私の2代目だ！

それにしても「翔」を買って下さったオジ様方、大なり小なり虫に興味をお持ちでしょうが、どういう方なのでしょうか。ぜひ、裏の住所を見て連絡して下さいませんかねえ〜と会員増の密かな期待をかけております。

こうしてみると、いろいろな人がいて面白いものですねえ。最初は眠くなるのではないかと、子供達からとんでもない質問を浴びせられるのではないかとおびえていた私ですが、今ではもう眼はランラン、次には何がやって来るかと胸わくわくであります。「翔」の売行きも想像以上、「何でも相談」もひとまず成功ですね。さて明日はどんな質問が飛び出すやらとっても楽しみ、明日も頑張っ

……………翔をうりますゾ

会員の動き。しゃばの動き

- ☛ 8月2日吉村氏、見せびらかし標本を持って蝶談会。ところが例会は1週間の延期で誰もいず、せっかくの標本は中西宅で披露された。
- ☛ 8月3日指田氏、マレーシアへ。今回はタマン・ネガラ国立公園でインディージョーンズするらしい。おっかないトラや毒ヘビが出てきても、ムチをひとふり。
- ☛ 8月4日中川氏、野中氏をお供に白山方面。釈迦林道では、雨の中クモマベニにアミを振り、大杉谷ではムモンアカの交尾に目をみはる。
- ☛ 山本氏、はるばる四国からゴマ採りに来沢するも、1回目は天候に恵まれずボツ。2度目のアタックで、みごと見越のゴマを採集。
- ☛ 8月10日嵯峨井氏、久々に長野県。懐かしの採集地は何処も有名過ぎて、虫はどんどん減っているとか。
- ☛ 8月11日釈迦林道、まずは上田氏登場。愛車を見捨ててネキ探し。続いて野中、澤田の混成チーム登場。上田氏の愛車を見つけて大騒ぎ。そこへ松井氏登場。騒ぎに参加。更に竹谷氏登場。騒ぎに参加。騒ぎはだんだん大きくなるのでした。
- ☛ 8月12日野中、中西組、オマケ付きで白山小桜ヒュッテへ。14日まで小屋をベースに昼は虫撮り、夜は花火の予定。
- ☛ 8月14日田辺氏、カメラ機材一式を携え白山登山。5kgのハンディーもなんのその、黒ボコ付近でクジャクを写し、意気は標高とともに上がる一方。
- ☛ 8月15日内灘霊園でメスアカムラサキ採集さる。墓参りの帰り道、井村氏の長男、光君が手づかみした。
- ☛ 8月16日井村氏、家族そろって富士登山。家族サービスと思いきや、日野春で一晩中オオクワガタを探すオマケが付いた。
- ☛ 8月16日松井氏、2泊3日の予定で白山小桜ヒュッテへ。高原の夏休みを満喫する予定。
- ☛ 8月17日田辺氏、門前町へ。クロコムラサキは撮り頃、写し頃、数も多くて新鮮。やっと気に入ったのが撮れました。
- ☛ 8月17日吉村氏、2週間の新婚旅行(スイス編)を終える。JTBのハイキングツアーはフリータイムも多く、網は振り放題。天候にも恵まれ、2本の網は軽やか舞うのだった。
- ☛ 松田氏、釈迦林道へ。ベニヒカゲはボロボロ。その他はポツポツ。
- ☛ 8月24日松井氏、宝達山にてツマグロヒョウモン♀を採集。さっそく採卵したもの、20卵程で大きなおなかのまま死んでしまった。ところが、この卵も次々と萎みだした。
- ☛ 8月28日名鉄丸越8階にて昆虫展が開幕。今日より6日間開かれ、蝶談会は標本15箱、説明パネル6枚、生態写真10枚を展示。
- ☛ 9月1日懇親会。昆虫展の特別講師、須田喜一氏を囲んで、ひがしの料亭「上重」にて開催。氏はアフリカを除く赤道付近の国々を古くから採り歩き、国状、採集地等に精通している。

- 9月2日昆虫展閉幕。この6日間で「翔」がなんと34冊も売れました。いったい誰が買ったのでしょうか。
- 9月8日松田氏、辰口町は蟹淵でトンボ撮り。ここは標高が低い割には深山幽谷の感があり、ルリイトトンボも飛んでいる。
- 9月9日小幡氏、羽咋市は滝港へ。台風の接近で、虫影もマバラ。
- 9月16日勝海氏、パパになる。愛娘の名は美帆リン、これで氏の機動力も鈍ること間違いなし。
- 9月17日野中氏、英国はケンブリッジ大学。キャンパスにはコヒオドシが群れ飛んでいたが、さすがにアミは振れず。辛うじて室内に飛び込んだ1頭を採集。

9月17日小幡氏、蟹淵へ。予備調査も行い、準備万端整えて朝5時から、なんと12時間もねばった。

例 会 の 記 録

8月9日(金)城南管工2Fにて8時より開催。兼ねてより懸案の写真集の発行元を「橋本確文堂」に決定。

今回のトピックは「吉村氏はスイスへ新婚旅行」「指田氏はタマン・ネガラでジャングルゴッコ」「雨が降っても虫は採れるが、虫は撮れない」「7月に平地でアカトンボが群れ、医王山ではクマが6頭も捕獲された。これは異常だ!」

参加は、松井、野中、澤田、江口、山岸、中田、中西、竹谷、井村、勝海 (TEL参加)の10人。

目 次

澤田 博：白山釈迦林道でクジャクチョウを採集	1
竹谷 宏二：クジャクチョウの目撃記録	1
松田 俊郎：辰口町鍋谷にてクジャクチョウを目撃	2
松井 正人：8月の白山七倉山で見かけた蝶	3
井村 正行：石川県でメスアカムラサキを採集	3
勝海 雅夫：立山・弥陀ヶ原にて	4
松井 正人：石川県に於けるゼフィルス分布5	5
野中 勝：石川県におけるヤコンオサムシ、オオオサムシの分布	9
松井 正人：アサギマダラの吸い寄せ術でマーキングは大快調	12
ヒロコ：SUN SUN 午後	13
編集部：会員の動き・しゃばの動き	14
編集部：例 会 の 記 録	15

とぶ NO.92

1991年10月4日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方
 百万石蝶談会
 ☎ 0762-58-2727
 振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所